

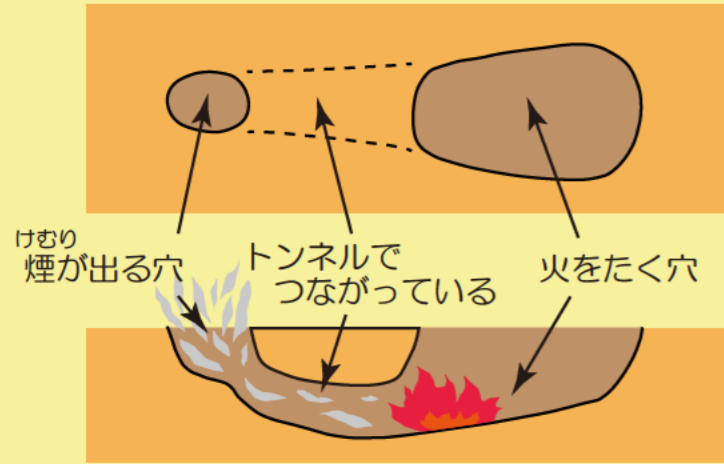
なかのやま いせき  
中野山遺跡



第10次発掘調査 現地説明会資料

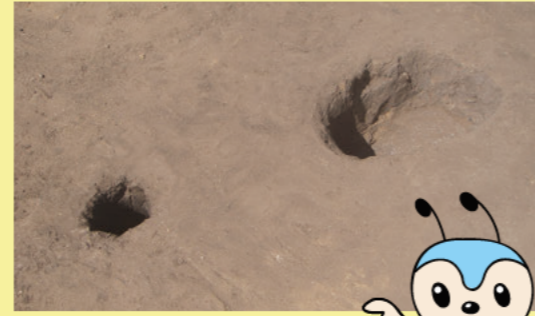
えんどうつきろあな  
煙道付炉穴のしくみ

上から見た図



横から見た図

ふくげん えんどうつきろあな  
復元した煙道付炉穴

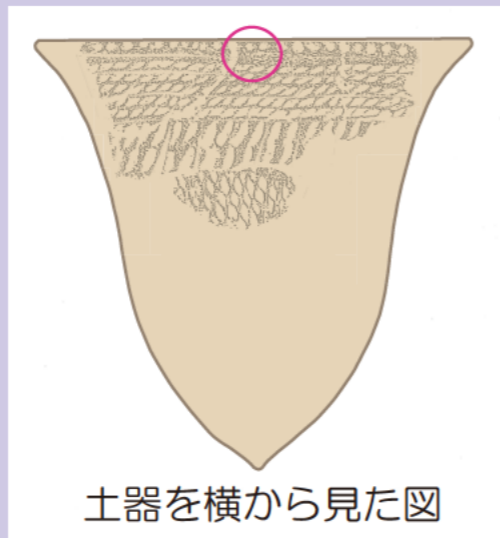


こんな感じになるのかな



えんどうつきろあな とき  
煙道付炉穴で見つかった土器

右の写真は、Aの炉穴で発見した土器のかけらを写したもので、下の図の○で囲った部分と考えられます。よく観察すると、格子の文様が見られます。この土器は押型文土器といわれ、木の枝に刻みを入れたものを転がして、文様がつけられています。この土器の特徴から、縄文時代早期（およそ10,000年～8,000年前）に使われていたものだと考えられます。今回の調査で、いろいろな炉穴で調理をしていた縄文時代の人々の、豊かな生活の様子がありました。



土器を横から見た図

中野山遺跡第10次発掘調査 現地説明会資料 (新名神高速道路発掘調査ニュース「新あさけのいにしへ No.12」)

三重県埋蔵文化財センター 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503  
TEL:0596-52-1732 / FAX:0596-52-7035 <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/>  
四日市整理所 〒512-8064 三重県四日市市伊坂町126-1  
TEL:059-363-3195 / FAX:059-363-3196 2013年10月5日

じょうもんじだいそうき  
縄文時代早期 (およそ10,000年～8,000年前) の  
えんどうつきろあな  
煙道付炉穴

2013年10月5日  
三重県埋蔵文化財センター

# なかのやま いせき 中野山遺跡 第10次マップ

じょうもんじだいそうき 縄文時代早期 (およそ 10,000 年～8,000 年前) の煙道付炉穴が  
えんどうつきろあな たくさん見つかったね。第4次調査区ろあなの炉穴と合わせて見てみると、  
このような広がり方になったんだね。



## A 【煙道付炉穴】

えんどうつきろあな  
どんぐりなど食料を長もちさせるため、煙でいぶす時に使われた、くん製の穴とも考えられるのじゃ。細長い形が特徴的じゃよ。  
じょうもんじだい 縄文時代の人々の知恵は ちえ 大したものじゃな。

← 矢印は煙が出る方向 けむり

A えんどうつきろあな そこ 煙道付炉穴 (底が赤く焼けたようすが見られる。)

第4次調査区 (調査が終わり、埋め戻してある) うもど

第10次調査区 (ただいま発掘中)

## B 【集石炉】

しゅうせきろ あな そこ  
この穴の底には、たくさんの石がならべてありました。食料を石の上において、蒸し焼きにしていたのでしょいか。底の土と、一部の石が焼けて赤く変色していました。

## C

この穴から ならしだい 奈良時代の土器をいく



つも発見しました。お墓かもしれません。 はか



## モグ博士

### いこう 主な遺構の時代と種類

じょうもんじだい 縄文時代 (およそ 10,000 年～8,000 年前)	えんどうつきろあな 煙道付炉穴	
	しゅうせきろ 集石炉	
	たてあなじゅうきよ 竪穴住居	
やよいじだい 弥生時代	たてあなじゅうきよ 竪穴住居・穴	
あすか 飛鳥～	たてあなじゅうきよ 竪穴住居	
ならしだい 奈良時代 (およそ 1,400 年～1,300 年前)	ほったてばしらたてもの 掘立柱建物	
	大きい穴	
	はか お墓?	

いこう ☆遺構…むかしの人々の生活の跡 あと